

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年8月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4091600215
法人名	社会福祉法人 三井福祉会
事業所名	グリーンホーム 大城の里
所在地 (電話番号)	久留米市北野町乙丸3-13 (電 話) 0942-78-6200
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年7月5日

【情報提供票より】(平成20年6月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 10月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	14 人	常勤 12人, 非常勤 4人,	常勤換算	14.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設 ／ <u>単独</u>	<u>新築</u> ／ 改築
建物構造	鉄筋造合金メッキ銅板ふき 造り	
	1 階建ての	1 階 ～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	又は1日 1,000円			

(4) 利用者の概要(平成20年6月16日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.3 歳	最低 70 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	神代病院、大城診療所
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

九州自動車道久留米インターチェンジより車で15分の位置にあり、西鉄甘木線大城駅前にあるグループホームである。2階には管理人夫婦が住んでおり、夜間の緊急時には心強い。「大城の里」4文字を入れた理念を職員みんなで作り上げ、理念の実践に日々取り組んでいる。また、くもんの学習療法を取り入れる等、認知症の進行を防ぎ利用者一人ひとりが目標を持って暮らしていけるよう支援している。その成果は徐々に始め、楽しみや生きがいとなっている。地域においては、災害時にホームを開放するなど地域に根ざした、まさに地域密着サービスとしての役割を担っており、今後も大いに期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域の行事には管理者のみが出席していたが、前回の評価を受け、今年の春の清掃活動には利用者も職員と一緒に参加し、汗を流した。また運営推進会議に市の担当者の参加を呼びかけ、共に地域密着型サービスとして質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員で分担して記入してもらった後、話し合い、各管理者が一つにまとめた。自己評価をすることで、今後にどう活かしていけばよいかを理解し、職員全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、奇数月の第3木曜日に開催するように取り決めており、皆さんが参加し易いように日時を固定している。参加者である市職員や地域包括支援センター、民生委員、家族代表にホームのことをより深く分かって頂けるよう行事報告や事故報告を行っている。会議で話し合い事故基準を引き下げ詳しい報告を行うことで、事故防止に取り組んでいる。また災害時にホームを避難場所として開放すること等話し合い、昨年の台風時に1人暮らしの高齢者2名の避難を受け入れた。地域に根ざしたホーム作りに取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	日頃から意見や苦情を言って頂けるよう玄関に意見箱を置いている。また家族会では職員が席を外す時間を作り、意見や苦情を言い易いようにしている。また無記名アンケートを実施し家族から出して頂いた意見は、職員で協議し改善に向け取り組んでいる。家族の希望により毎月の近況報告書に翌月の行事予定を記入し、家族も参加し易い様改善した。また家族の心配事である終末期の対応については、母体法人と看取りの指針を検討中である。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事である左儀長(サギツチョウ)でしめ縄作りに参加したり、総会に出席したりしている。今年の地域清掃には利用者も職員と一緒に参加した。隣が酒蔵であり蔵開きのお祭りには、みんなで参加し地域の人達との交流を深めている。またスーパーや近隣との交流も深まっており、地域の小中学校の福祉体験授業や実習の受け入れも行っている。

2. 調査結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム大城の里の四つの文字を入れた理念を、職員みんなで話し合い作り上げている。ホームのパンフレットには地域社会とのつながりをうたっているが、大城の里の理念は地域密着サービスの役割を反映させたものにはなっていない。	○	グループホームの基本理念にある「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」を目指し、さらにパンフレットに書かれているように地域密着型サービスとして今一度理念の見直しが望まれる。また、理念は誰が見ても分かり易い言葉でホール内に掲示されることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	母体法人の経営理念と大城の里独自の理念をスタッフルームに掲示している。会議や毎日のミーティングの席で理念について話し合いや確認がされており、日々の介護の中で理念を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事である左儀長(さぎっちょう)でしめ縄作りに参加したり、総会に出席したりしている。今年の地域清掃には利用者と職員と一緒に参加した。また隣が酒蔵で蔵開きのお祭りには、みんなで参加し地域の人達との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、職員で分担して記入してもらった後、話し合い、各管理者が一つにまとめた。前回の外部評価を受け、今後はどう活かしていけばよいかを職員全員で話し合い、改善に向け取り組んだ。前回の調査報告書は一定期間誰もが自由に見ることが出来るよう玄関に置いていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、奇数月の第3木曜日に開催するように取り決めており、皆さんが参加し易いように日時を固定している。参加者である市職員や地域包括支援センター、民生委員、家族代表にホームのことをより深く分かって頂けるよう行事報告や事故報告を行っている。会議で話し合い、事故基準を引き下げたり、災害時にホームを避難場所として開放すること等、より良いサービスに向け取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所が抱える問題について日頃から電話などで助言指導を仰いでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者が1人おられる。管理者や職員は、研修や勉強会を開き、制度の理解に努めている。必要な時にいつでも関係機関への橋渡しができるよう説明用のパンフレットも準備している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回近況報告をスナップ写真と共に手渡しや郵送で報告している。近況報告には、血圧や体温や脈拍等とホームでの様子や来月の行事予定など記載し家族との連絡に使用している。ホームの新聞「ひだまり」も3ヶ月毎に発行している。また金銭管理については、定期的に収支の報告をしてサインを得ているが、職員か家族かの判断がつきにくい。	○	金銭管理については適正に処理されているが、現金出納帳に家族の確認欄を設ける等、一目して家族であることが分かりような書式を作成することが望まれる。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見や苦情を言ってもらえるよう玄関に意見箱を置いている。また家族会で職員が席を外す時間を作り、意見や苦情を言い易いようにしている。また無記名アンケートを実施し、家族から出して頂いた意見は職員で協議し改善に向け取り組んでいる。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職を最小限にするため、働き易い職場作りに取り組み、職員の希望は極力聴くようにしている。子供が小さく夜勤が負担と感じている職員に対しては、夜勤の回数を少なくする等配慮している。また法人内異動の場合は充分引継ぎの時間が取れるように法人に申し出る等、職員交代による利用者のダメージを少なくするよう取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたっては、性別や年齢、宗教、出身地等を理由に採用対象から外すようなことは無い。また職員の特長を発揮できるような係りを担当してもらっている。折り紙が得意な職員には、利用者と一緒に作った折り紙でホームを飾り、みんなに喜んでもらっている。また法人は、資格取得に向け、試験の3、4ヶ月前から週1回の勉強会を開いており、バックアップ体制も充実している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修会に参加している。また日頃の介護の現場で、利用者の人権を尊重するよう職員に指導している。利用者の個人的なことは立ち話ではなく、別室で話を聴くように指導する等、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の全体研修を年に3回実施し、職員のレベルアップを目指しているが、受講できなかった職員のフォロー体制までは取組まれていない。運営者は、各職員に半年毎に自己評価票を記入させて、自己を見つめ直す機会を持たせている。管理者は、日々現場で助言したり、考えるきっかけを示し、職員育成に取り組んでいる。	○	研修に参加しなかった職員にも、資料を回覧したり配布したりして、研修内容を共有するための仕組みを作ることが望ましい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し交流を深めている。また同法人の3つのグループホーム合同の勉強会は2ヶ月毎に開催し、質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	契約やサービス開始前に、見学や体験入居をして頂くよう勧めている。また職員が自宅を訪問し安心してサービス利用が出来るような体制を整えている。サービス開始当初は、家族に頻繁に訪問してもらうなど、徐々に馴染んでいただくよう家族と相談しながら工夫し、利用に繋げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から洗濯物の干し方や家事の仕方を通して、物の大切さを教えてもらっている。また利用者に応じた声かけをしながら昔のことを聴きだす場面を積極的に作り、共に涙を流したり喜んだりして、支え支えられる関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と日々関わる中で、本人の意向や希望を聴くようにしている。言語の不自由な方は表情や声のトーンや強弱で思いを汲み取るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の思いを基に介護計画を作成している。出来なかった事や諦めていた事が出来るようになり、生きがいが楽しさを感じてもらえるよう取り組んでいる。文字が書けなかった人に、遠方の息子さんにハガキを出す事を目標にして、くもん学習療法に取り組んだところ手紙を書けるまでになった。更にはハガキ購入や投函の為に外出する等、実に素晴らしい介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に6ヶ月の介護計画を作成し、3ヶ月毎に評価し、見直しをしている。また状態の変化など必要に応じて本人や家族、関係者と話し合い、現状に即した介護計画の見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を配置し、医療連携体制が出来ている。同法人のデイサービスセンターが隣にあることから逆デイサービスを実施している。体験入所や病院からの試験外泊、家族の宿泊や外出時の車椅子の貸し出し等をしている。身寄りがなく、正月ホームで過ごす利用者を日帰り温泉旅行に誘う等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に応じて、入居前のかかりつけ医や協力医療機関への受診を支援している。また適切な医療が受けられるように、個人情報の取り扱いに関する同意書を本人家族から得て各医療機関に提出し、円滑に病院受診が出来るよう支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の希望を尊重し、医療機関とも連携をとって出来る限り意向に添えるようにと、看取りについての指針を法人と共に検討しているところである。重度化や終末期のあり方については、入居時説明し同意を得ているが、家族会の意見でも看取りへの不安が多く寄せられている。	○	重度化した場合どのような状態までホームで対応できるのか、また実際に利用者や家族の状況が変化した場合も、その都度繰り返し話し合う事が重要である。ホームの指針を作成し、利用者や家族が安心して過ごせるよう取り組まれることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	契約時に個人情報の使用に係る同意書を交わしている。また一人ひとりの思いを尊重した声かけや対応をしている。プライバシーに関する話し合いや記録はスタッフルームで行うようにしており、書類は外部の人の目に触れないよう扉付きの書類棚に保管されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝、食事、入浴など日常生活の中で、利用者の意思を尊重した対応を心がけている。少し遅れて昼食を摂っておられた利用者の姿もあった。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で摂れた季節の野菜も食卓を飾り、食卓を楽しませている。また一人ひとりの能力に応じて、野菜切りや片付けの手伝いが出てくる。食卓には職員と利用者が一緒に作った梅干やらっきょうが並び静かな音楽を聴きながら食事を楽しみ週1回の手作りおやつも楽しみとなっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の体調を確認し、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。入浴を嫌う利用者へは、時間をおいて声をかけている。利用者の半数の方が毎日入浴しており、時には庭先で採れたミントを湯船に入れるなどして楽しんでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除など日常生活の中で役割が張り合いとなっている。また趣味の書道や刺繍を楽しんでいる。利用者に園芸部長をお願いし、野菜の育て方を指導していただいている。事業所としてくもん学習にも積極的に取り組み、生活意欲の向上に繋げている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の趣味を把握し、好きな推理小説を借りて図書館に行ったり、親戚巡りをしたり支援している。またリハビリを兼ね歩いてタバコを買いに行ったり、ポストに手紙を出しに行ったりと外出の機会を多く持つよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室、窓、ベランダ等出入り口には就寝時以外は施錠をしていない。玄関と裏門にはセンサーを設置し、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと避難訓練を年2回実施している。通報、消火、避難場所や避難経路の確認をしている。日頃から地域の区長や民生委員、近隣の方々にも協力を依頼している。また災害時の避難場所として施設を開放していることは地域の人達にも周知されており、昨年の台風時には2名受け入れた。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録表に朝昼夕の主食副食の摂取量と水分量を記入し、バランスのとれた食事提供が出来るよう取り組んでいる。また検査簿を作成し、献立作りに反映できるようにしている。温度や食事形態も一人ひとりの好みに応じ、食が進まない時にはおにぎりにする等きめ細やかな支援を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビングなど施設内は明るく広々としており、天井も高く快適である。掃除が行き届き、清潔で衛生面にも留意されている。玄関や廊下、居室のドアに手作りの小物や季節の花々が飾られ、訪れる人の心を和ませている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活が出来るよう、家族には新しいものを購入するのではなく、使い慣れた物品を持ち込んでいただくようお願いしている。仏壇やダンス、お手製の文化刺繍のカバーがかかった鏡台など思い思いの部屋となっている。また西側の窓にはよしずを置く等快適に過ごせるよう工夫している。		